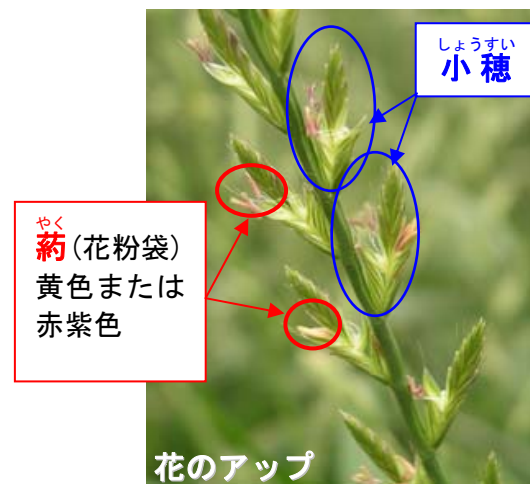


かぶんしょう ちゅうい イネ科花粉症に注意しましょう

5月から7月にかけて目がかゆくなったり、鼻水がでたりなど、アレルギーの症状が出ていませんか。国内ではスギの花粉症が有名ですが、スギ花粉の飛散はおおむね3月末から4月中旬頃に終わります。晩春から初夏にかけての花粉症の症状は「イネ科植物」が原因の可能性があります。

①原因になる植物は？

イネ科花粉症の原因となる植物は、外国から輸入され広く利用されている寒地型の牧草類が中心です。ネズミホソムギ（ネズミムギ、ホソムギ含む）、オニウシノケグサ、カモガヤ、ハルガヤなどが主要な原因植物と考えられています。江戸川では、この中でも、**ネズミホソムギ**の生育量が最も多く、特に注意する必要があります。



穂には沢山のしょうすい小穂がつき、やく葯が開いて垂れ下がってれば、花粉が飛んでいます。
1つの穂は10日間くらい開花しています。

②どこに生育しているの？

ネズミホソムギは生活力が強く、道ばた、空き地などにみられます。

江戸川堤防や河川敷にもたくさんのネズミホソムギが生育しています。



③花粉が飛ぶのはいつごろ？

イネ科の花粉症原因植物は4月下旬から8月上旬まで花粉が飛散しますが、最もたくさん花粉が飛ぶのは5月中旬～6月下旬です。

④花粉を避けるためには

5月から7月にかけては、江戸川の堤防や河川敷にたくさんのイネ科花粉が飛散している可能性があります。花粉の飛散時間帯は、晴天の場合、午前中に大半が飛散し、ピークは8時～10時です。気温が高いほど早い時間帯から飛散する傾向が見られます。午前中に低温で、午後に気温が上昇した場合などは、午後に飛散することもあります。

江戸川河川事務所では、出来るだけイネ科の花粉を少なくするように堤防除草の時期を調整しますが、完全に花粉がなくなるわけではありません。堤防沿いにお住まいの方、堤防を散策される方は、花粉を避けるために次のような点に注意しましょう。

原因植物が密生した草むらに入らない・近づかない。

※イネ科の花粉はスギのように遠くまで飛びませんので、開花中の草むらに近寄ったり、中で遊んだりしないことが第一です。



- ・出来るだけ室内に花粉を入れないう、布団や洗濯物はしっかりとたたいてから取り込む。
- ・散歩には、マスク、メガネ、帽子を着用する。
- ・外から帰ったら、うがい、洗顔をする。

風の強い日は、特に注意



連絡先：国土交通省 関東地方整備局 江戸川河川事務所

tel : 04-7125-7319(管理課) URL <http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/>